

Costume and Textile

No.26

服飾文化学会会報

2013年9月

2013（平成25）年度 第14回服飾文化学会大会の報告

平成25年度第13回服飾文化学会総会・大会は、5月25日（土）・26日（日）の2日間にわたり、東京都板橋区にある東京家政大学を会場に実施されました。

天候に恵まれ、正会員91名、非会員15名、学生会員6名、学生非会員9名の合計121名の方がご参加下さいました。以下はその報告です。

1. 研究口頭発表・作品とポスター展示発表

発表件数は、研究口頭発表8件、作品展示13件、ポスター展示7件、合わせて28件でした。

昨年始まった、研究発表と同会場でのスライドによる作品・ポスターのショートスピーチは大変好評でしたので、今年も継承しました。昨年度は1件当たりの発表時間が5分でしたが、やや短いという印象がありましたので、今年は少し延長して7分としました。まだ充分とは言えないかもしれませんが、制作者の意図を、一層理解しやすくなったと思います。

2. 特別講演

大角幸枝氏による講演「ファッションジュエリーの世界 ―おしゃれの舞台裏―」は、口頭発表と同じ会場で、行われました。



作品展示会場質疑応答 1



作品展示会場質疑応答 2



研究発表情景

氏は金工作家として、日本伝統工芸展などで活躍され、その作品は文化庁、東京国立近代美術館、MOA美術館、英国王立ヴィクトリア&アルバート博物館、王立スコットランド博物館他に収蔵されています。また一昨年まで、東京家政大学造形表現学科（旧服飾美術学科美術専攻）教授として、永らく後進の指導に当たられました。今回の講演は、1970年代に、若き日の氏がデザイナーとして関わられたファッションジュエリーの世界について、その経験や最近の調査をもとに、お話をいただきました。

ファッションジュエリーは宝石を中心とした

ジュエリーとは異なり、用いられる宝石の価値よりは衣服のファッションとのコーディネート、ファッション性、デザイン性が重視され、時代の技術革新に伴った多彩な材料が用いられるという面を持ち、また比較的安価であることも特徴で、そのために、時代の美意識を色濃く反映していることが指摘されました。

最近の我が国のファッションジュエリー業界の動向について、浅草橋界限など、氏自身が実地調査に当たられた状況を、豊富な写真のスライド、実際のジュエリー材料のサンプルと共に紹介され、盛会のうちに終了しました。

洋装には欠かせないジュエリー、中でもファッションや時代の変化を反映しやすいファッションジュエリーについて、研究のためのヒントを頂いたという印象を受けた方も多かったのではないのでしょうか。

尚、講演に先立ち、開催校東京家政大学木元幸一学長より、本学会への温かい歓迎のご挨拶がありました。

3. 博物館見学

2日目の展示会場での質疑応答終了後、東京家政大学博物館で開催中の企画展「よそおうー江戸後期から昭和初期のきものを中心にー」と常設展「レース」「裁縫雛形」を見学しました。企画展では小袖、打掛などのほかに、半襟、櫛、簪、化粧道具などの装いのための品々が、常設展「レース」ではハンドメイドのアンティーク・レースとその制作用ボビンなどの道具類、「裁縫雛形」では同大学創設期以来の教材であった裁縫雛形が展示され、各展示の担当学芸員、藤井裕子氏、三友晶子氏、菅野ももこ氏による詳細な解説がありました。

4. 懇親会

初日25日の夕刻、大学内のカフェテリア「ルーチェ」にて、懇親会が開かれました。会場としては近隣のホテルやレストランという選択肢もありましたが、移動時間の短縮、参加しやすい費用、料理の質という観点から、学内施設を選びました。おかげさまで、57名のご参加がありました。

京都女子大学常見美紀子先生の司会、学会長岡田宣世先生のご挨拶、昨年度開催校の尚絅学院大学玉田真紀先生の御発声による乾杯で始まり、特別講演の講師大角幸枝先生や会員の先生方のス



懇親会 岡田会長挨拶（手前の後姿）



懇親会 乾杯の御発声 玉田先生（右）司会 常見先生（中央）

ピーチ、夏期セミナーのご紹介などをはさみながら、暮れなずむ初夏の夕べ、参加者一同、ゆったりとした歓談の時間を共にしました。

5. その他

展示作品の記録写真の撮影は、エリオ写真会社に依頼いたしました。この記録を活用し、出品者の多くが、学会誌作品編に投稿なさいますことを期待しております。

今回、研究発表・作品とポスター展示は、基本的には昨年までの方法を踏襲いたしました。たとえば発表時間、要旨の形式など、より良い形を生み出してゆくために、忌憚なきご意見やご希望、また国内外の他学会の情報などを頂戴できたらと思います。

担当理事3名（知野、大塚、能澤）が開催校に所属していたことで、順調に準備を進めることができました。また尚絅学院大学玉田真紀先生には、幾度も質問や相談に懇切に応じて頂きました。当日は学内の学会員の教員・学芸員・院生の皆様のご協力も頂き、実行に移すことができました。御関係の皆様に深く感謝申し上げます。

（大会実行委員長 能澤慧子）

●第14回総会・大会プログラム

5月25日(土)

・開会挨拶 13:30~13:35
・口頭発表 13:35~15:35

❖座長 長田 美智子(鎌倉女子大学)

A-1 飾育への実践を通してー環境を視点としたデザイン制作

ー大妻女子大学 大網 美代子

A-2 おしゃれアイテムとしてのブラジャーに対する近畿地区の女性の意識
ー高齢者と若年者の比較ー

神戸女子大学 高野倉 睦子

❖座長 内村 理奈(跡見学園女子大学)

A-3 1926-27年のジャンヌ・ランバンのドレスに関する一考察

大阪樟蔭女子大学 藤本 純子

A-4 中国古代の化粧文化

ー白粉の変遷と日本への影響ー

大阪樟蔭女子大学(非) 水野 夏子

❖座長 長崎 巖(共立女子大学)

A-5 鳥居清長の浮世絵に見る服飾描写

文化学園大学 福田 博美

A-6 小袖雛形本における文字文様の研究

ー文字入り伊達紋に着目してー

○植草学園大学 馬場 彩果

福島大学 千葉 桂子

❖座長 佐藤 泰子

A-7 紅型研究の再構築

ー琉球紅型のイメージと実像ー

女子美術大学美術館 須藤 良子

A-8 「白垂直」から探る武家の意識

ー鎌倉時代から室町時代へー

群馬医療福祉大学 山岸 裕美子

・特別講演 15:45~17:15

演題 「ファッションジュエリーの世界

ーおしゃれの舞台裏ー」

講師 大角 幸枝 氏

(金工作家 東京家政大学名誉教授)

・総 会 17:25~17:55

・懇 親 会 18:00~19:30

ルーチェ(学内施設)にて

5月26日(日) 9:30~11:50

作品展示 ショートスピーチ

❖司会進行 玉田 真紀(尚絅学院大学)

B-1 繊維と金属線の融合V

女子美術大学 佐久間 恭子

B-2 陰影を活かしたテキスタイルの創作

ー照明器具への応用パート2ー

東京家政学院大学 松本 幸子

B-3 刺繍創作への展開を目的とした欧風刺繍実習

女子美術大学 内田 桃子

B-4 透かし織りタペストリー

ーさくらの季(とき)ー

相模女子大学 池田 節子

B-5 彦根更紗を活かした生活雑貨のデザインII

○滋賀県立大学 森下 あおい

クリエーションA・R 中川 涼子

B-6 A Day of Hatter

映像作家 ○松本 力 松本 由伎子

B-7 NOHAT, NOLIFE

テオの帽子アトリエ ○松本 由伎子

映像作家 松本 力

B-8 和服の仕立て直しの可能性

ー子ども物からの展開ー

共立女子大学 ○長谷川 紗織 田中 淑江

B-9 ヴィオネとコムデギャルソンのはざままで

ー変化するデザイナーー

大妻女子大学 大網 美代子

B-10 クリストバル・バレンシアガにみるコート(1960)の衣服構造

ー復元製作による考察ー

文化学園大学 ○矢澤 郁美 清水 美里

B-11 西洋歴史服の技術と構造に関する研究(2)

ーバスル・シルエットのドレスー

東京家政大学 ○倉 みゆき 能澤 慧子

B-12 防災服兼用のタウン着

○相模女子大学 角田 千絵

相模女子大学短期大学部(元) 田中 百子

B-13 古代組紐の組織と現代への展開

鈴木 美登里

ポスター展示 ショートスピーチ

❖司会進行 常見 美紀子(京都女子大学)

C-1 女子美染織コレクション小袖の調査報告
ー江戸時代前期を中心にー

女子美術大学 岡田 宣世

C-2 千總所蔵小袖の保存と修復に関わる調査

○女子美術大学 岡田 宣世

多摩美術大学 深津 裕子

C-3 陸前高田市立博物館所蔵染織資料 修理報告

女子美術大学 岡田 宣世

多摩美術大学 深津 裕子

○女子美術大学 大崎 綾子

C-4 江戸後期 山車刺繍幕の素材

ー羽毛についてー

女子美術大学 青谷徳子

C-5 共立女子大学所蔵「綿製アメリカン・アンティークキルト」2点の素材と技法

共立女子大学大学院 ○廣瀬洋子

齊藤昌子

C-6 日本刺繍ー創作への応用展開の基礎ー

女子美術大学 大崎 綾子

C-7 現代社会におけるファッション動向とその周辺(1)

iTCS観光文化研究所 澤村 英子

・質疑応答

11:50~12:30

・昼 食

12:30~13:30

・博物館見学

13:30~14:30

企画展「よそおうー江戸後期から昭和初期のきものを中心にー」

常設展「レース」、「裁縫雛形」

特集記事 会員近刊書

『モードの身体史—近世フランスの服飾にみる清潔・ふるまい・逸脱の文化—』

内村 理奈

本書は、2012年3月にお茶の水女子大学大学院にて、博士号を取得した際の博士論文（論文博士）を基にしています。博士論文のタイトルは「アンシャン・レژیーム期フランスの服飾にみる秩序の表象」です。お茶の水女子大学博士課程に在学中から今日に至るまで、さまざまなテーマで執筆してきた論文の中からいくつかを選び、それらを一つのテーマで再構成しなおして、博士論文にいたしました。

私はフランスの17世紀から18世紀の服飾文化史を専門としています。その中でも、特に、17世紀に量産された礼儀作法書の中に記されている服装規範に関心を持っています。ちょうどルイ14世の治世下であり、ヴェルサイユ宮殿での華やかな宮廷文化が開いた時期です。当時の礼儀作法書は、多岐にわたる内容をもっていました。服装規範とは、宮廷に出仕し立身出世していくために必要な服装のマナーという側面を持っていました。当時の礼儀作法書は、そのような意味では、紳士の処世術書のような性格を持っています。

本書は、17世紀から18世紀の礼儀作法書にみられる服装規範を基本的な史料にしながら、文学作品（特にモリエールなどの戯曲）、回想録、日記、奢侈禁止令などの文献資料も扱っています。また、珍しい史料としては、18世紀のものになりますが、遺体調書という史料も扱っています。これは、当時変死体が発見されたときに、司法記録として、身元確認のため遺体が身につけている衣服をすべて詳細に記した文書です。

これらの史料を基にして、私は、身体論の視点から、当時の服飾文化を再構成したいと考えていました。つまり、当時生きた人びとの皮膚感覚や身体感覚に、服装を通して近づいてみたいと思っていました。そうすることによって、人びとの身体感覚に、どのように当時の身分社会の現実が刻

み込まれていたのか、解明したいと思いました。そのために、服装という観点は、有効な手がかりになると考えました。

本書の構成は3部構成になっています。以下に本書の目次を記します。

序 論

第1部：清潔—身体感覚の秩序—

第1章：清潔の誕生

第2章：「白いリネン類」lingeによる身分秩序の身体化

第3章：シュミーズの色による差異—身体衛生と漂白の奢侈—

第2部：服装規範—ふるまいの秩序—

第1章：服装規範

第2章：帽子的表象—ふるまいが構築する社会秩序—

第3章：帽子をめぐる身体表現—ダンスの教本を中心に—

第3部：逸脱するモード—秩序のゆらぎ

第1章：女性の仮面モード

第2章：部屋着モードにみる規範秩序からの逸脱—快適とエロティシズム

結 論

以上のような構成です。巻末には服飾用語一覧や、付録として史料も掲載しました。

本書を構成した論文のいくつかは、本学会にて研究発表や論文発表をさせていただいたものになっています。この場を借りて、学会の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

（悠書館、A 5 版348頁、近日刊行）

2013年度第14回 夏期セミナーの報告



志村ふくみ氏を囲んで（アルスシムラにて）

今年度のセミナーは平成25年8月7日（水）～9日（金）の日程で京都市内において実施されました。晴天に恵まれ、37℃を越す猛暑の3日間でしたが、38名の参加者全員元気に研修を終了しました。

今回は、京都という歴史的風土を生かし、脇谷寿氏（同志社女子大学名誉教授）による講演（公開）、新島八重に関する展示見学、そして現在第一線で活躍中の日本刺繍工芸家福田喜重氏（人間国宝）、染織家志村ふくみ氏（人間国宝）・洋子氏、京蒔絵師下出祐太郎氏の講演と工房見学を中心に研修を行いました。

8月7日（水）

初日は同志社女子大学を会場に、脇谷寿氏から「道長の栄華と『源氏物語』」と題するご講演をいただきました。脇谷氏は長年にわたり平安時代の政治と文化について研究され、平安遷都1200年の事業にも携わってこられました。

講演では、京都御苑の北に位置する同志社女子大学は、平安時代の大内裏の東にあたり、ここは古くから公家町として栄え、近世には公家屋敷が立ち並ぶ地域であったことが、当時の地図をもとに詳細に説明されました。さらに、『紫式部日記』や『御堂関白記』、『小右記』などの記述から、道長が栄華を極めていった状況や『源氏物語』との関係について解説されました。さまざまな史料から道長に関する記述をたどることにより、当時の状況をより具体的に知ることができま



講師 脇谷寿氏

した。深い知識に裏付けられた流麗な語り口の講演を、公家たちが活動していた場所で聞くことができ、平安時代が身近に感じられる贅沢な時間でした。

その後史料室で「新島八重と同志社女学校」の展示を見学し、夜には京都ガーデンパレスで懇親会が開かれました。懇親会では柳原美紗子氏の司会のもと、岡田宣世会長の挨拶、石井とめ子元会長の乾杯の音頭、脇谷寿氏のスピーチ、村岡三喜子氏が用意された「京の通り名 数え歌」を皆で歌うなど、和やかな中に宴を終えました。

8月8日（木）

朝から厳しい日差しが照りつける中、福田喜重氏の工房（福田芸芸染織研究所）を訪れました。最初に伸子張りした一反の布地に引染めしながら、部分的にぼかしを施す「ぼかし地染」、次に「彩色」、「箔置」、「検品」の作業工程を見学しました。また精緻で高度な伝統的技法を駆使して制作された、現代感覚あふれる美しい総刺繍の着物や桃山期の復元作品などを鑑賞しました。

福田氏は刺繍用の絹糸、大太から江戸付まで10種に及ぶ刺繍針や三条安重の鋏を提示しながら、

材料や用具について説明され、それらは刺繍の技法によって細かく使い分けられ、また年々入手困難になりつつあることがわかりました。



講師 福田喜重氏



講師 志村ふくみ氏

その後、「和食庵 さら」において京風二段弁当の昼食を賞味しました。

午後からは、今春開校されたばかりの志村ふくみ氏、長女洋子氏の芸術学校「アルスシムラ」を訪ねました。志村ふくみ氏は御年88才とは思えぬほど若々しくお元気で、洋子氏と交互にパワーポイントを用いてご講演下さいました。

ふくみ氏は日本人と色との関わり、これまでの歩み、植物染料と紬と平織を用いる理由、植物の命をいただくことへの思いなど、洋子氏は藍染への思い、作品の特徴、アルスシムラの教育、最後にふくみ氏の米寿のお祝いに洋子氏が染織されたニガヨモギの振袖についてお話しをされました。

ニガヨモギには、ロシア語「チェリノブイリ」や聖書「ヨハネ黙示録」の記述から、忌み嫌われるイメージがありますが、振袖は淡くて優しいみどり色でした。お二人にはタブーの色や草木はなく、「自然界に存在する美しい生命の色を引き出すお手伝いをしているだけなのです」といわれた言葉が心に残りました。

その後教室で機織りの実演、植物で染色された絹糸を見学し、ギャラリーで着物や小物、ショールなどの作品を鑑賞して2日目が終了しました。

8月9日(金)

最終日は京都美術工芸大学教授で、下出蒔絵司所三代目当主の京蒔絵師下出祐太郎氏の工房を訪れました。下出氏は近年京都迎賓館の漆芸調度制作、高台寺蒔絵の復元的制作に取り組まれました。

講演では、蒔絵に用いる材料や道具、技法について基本のお話をしていただき、工程の違いで

様々な仕上がりになることを実物を示しながら解説されました。蒔絵にも簡単な技法から、漆を塗り重ねて立体的に仕上げる技法まで様々な技法があることがわかりました。その後制作の様子を見学し、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館で展示し、好評を博した高台寺蒔絵の復元的制作屏風を鑑賞しました。下出氏はユーモアあふれる語り口で、蒔絵の魅力と奥深さについて話されました。現在京都の伝統工芸は厳しい状況にありますが、人を育て、良い作品を作り、海外にも活動の場を広げるにより、まだまだ発展の可能性があることがわかり、今後について考える良い機会ともなりました。

最後に本セミナーにご協力、ご尽力いただきました皆様に心より御礼を申し上げます。

(夏期セミナー担当委員 清水久美子・馬場まみ)



講師 下出祐太郎氏

第14回夏期セミナープログラム

8月7日(水)

- 13:30 受付 同志社女子大学
- 14:00 龍谷寿氏による講演
- 15:45 ガイダンス
- 16:15 同志社女子大学史料室企画展見学
- 18:00 懇親会

8月8日(木)

- 9:30 京都ガーデンパレス集合(タクシー移動)
- 9:00 福田喜重氏の工房訪問(見学と解説)
- 12:30 昼食(和食庵 さら)(タクシー移動)
- 14:00 志村ふくみ氏・志村洋子氏の芸術学校「アルスシムラ」訪問(講演と見学)

8月9日(金)

第1グループ

- 8:40 京都ガーデンパレス集合(タクシー移動)
- 9:00 下出祐太郎氏の工房訪問(講演と見学)

第2グループ

- 10:10 京都ガーデンパレス集合(タクシー移動)
- 10:30 下出祐太郎氏の工房訪問(講演と見学)

◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇

・キモノビューティー展

場所：群馬県立近代美術館

期間：2013年9月21日（土）から11月4日（月）

前期 9月21日から10月14日

後期 10月18日から11月4日

出品協力

ボストン美術館

共立女子大学

女子美術大学美術館 他

※今年初めから千葉県美術館、福岡市博物館、奈良県立美術館 鳥根県立美術館で開催された。



・第46回・公募 創作手工芸展

会場 東京都美術館ギャラリーC

会期 2013年11月8日（金）～15日（金）

9：30～17：30（最終日13：00迄）

入場無料

主催 公益財団法人 日本手工芸作家連合会

・文化学園創立90周年記念特別展

「明治・大正・昭和戦前期の宮廷服

—装束と洋装—」

会期 2013年10月23日（水）～12月21日（土）

場所 文化学園服飾博物館

開館時間／10：00～16：30

（11月15日、12月13日は19：00まで開館、

入館は閉館の30分前まで）

休館日／日曜日、祝日

（ただし、11/3、4は開館）



平成25年度 服飾文化学会 研究例会のご案内
内 容：「若手研究者の発表会」

発表者：黒川裕子氏（東京家政大学、大東文化大学、放送大学非常勤講師）

「日本におけるロンドン・パンク・ファッションの受容」

岡松恵氏（奈良女子大学 博士研究員）

「江戸時代の小袖模様の独自性と「負」の模様」

司 会：長崎 巖氏

日 時：平成25年11月30日（土）13：30～16：15

会 場：共立女子大学 本館 10階 1010号室

交 通：地下鉄都営三田線、都営新宿線、東京メトロ半蔵門線神保町下車A9出口1分

平成25年度服飾文化学会論文発表会のご案内

日 時：平成26年2月28日（金）

13時～ 論文発表会

発表会終了後 懇親会

場 所：跡見学園女子大学 文京キャンパス
（最寄駅 茗荷谷）

◇◇◇◇ 展覧会と講演のお知らせ ◇◇◇◇

*東京都北区飛鳥山博物館主催

「名所物語—浮世絵に描かれた北区の江戸時代」

10月22日（火）～12月23日（月）

講演会：11月24日（日）於：北区飛鳥山博物館

国際日本文化センター教授 白幡洋三郎

「名所と大名庭園（仮）」

共立女子大学名誉教授 伊藤紀之

「描かれた北区の名所（仮）」

*女子美染織コレクション展Part 3

インドネシアの布—島々の記憶—

会 期：2013年9月6日（金）～2013年10月17日（木）

講演会：「インドネシアを知る」

10月5日（土）13：00～15：00

小笠原小枝（日本女子大学名誉教授）、
伊藤ふさ美（パティック作家）、松本亮
（日本ワヤン協会会長）による講演会。

会 場：女子美アートミュージアム

インドネシアで制作される蠟で防染して
模様を表す「パティック」と経織の「イ
カット」を展示いたします。



※各展覧会の詳細は各館HPをご参照ください

会計報告

***** 事務局より *****

①服飾文化学会 平成24(2012)年度収支決算書(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,347,000	1,362,000	15,000	H25 6,000×1 H24 6,000×204、3,000×17 H23 6,000×7、3,000×1 H22 6,000×4、3,000×1 H21 6,000×1、3,000×1
(2)入会費	20,000	10,500	△ 9,500	1,000×9、500×3
(3)年間購読料	54,000	54,000	0	3,000×18
学会誌				
(4)論文編掲載料	634,000	99,000	△ 535,000	Vol.13 84,000(掲載料)、 3,000×5(審査通信費)
(5)作品編掲載料	300,000	191,000	△ 109,000	179,000(掲載料)、 3,000×4(審査通信費)
その他	0	6,917	6,917	学会誌バックナンバー販売 6,000 利子 917
繰越金	358,128	358,128	0	
合計	2,713,128	2,081,545	△ 631,583	
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
学会誌				
2)論文編発行費	900,000	433,752	△ 466,248	
3)作品編発行費	620,000	462,185	△ 157,815	
4)事務管理経費	200,000	166,000	△ 34,000	
5)通信費	110,000	48,400	△ 60,600	
6)会報発行費	150,000	149,840	△ 160	会報No.24.25
7)事務用品費	60,000	20,331	△ 39,669	
8)会議費	80,000	99,130	19,130	
9)交通費	50,000	20,210	△ 29,790	旅費・滞在外交通費(実費上乗2000円)を含む
10)雑費	10,000	10,000	0	慶弔費
(2)事業費				
1)事業費A	50,000	61,005	11,005	研究例会
2)事業費B	150,000	163,249	13,249	論文発表会
(3)広報費	170,000	119,211	△ 50,789	ホームページ作成費を含む
(4)予備費	63,128	5,262	△ 62,866	生活科学系コンソーシアム24年度会費・
(5)服飾文化基金	0	0	0	
小計	2,713,128	1,859,575	△ 858,553	
(6)次年度繰越金		221,970		
合計	2,713,128	2,081,545		

資料には収入として「利子 917」が入っておりませんでした。ここに記してお詫びいたします。

②服飾文化学会 平成24年度特別会計収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,462,355	
大会余剰金	22,302			
夏期セミナー余剰金	95,070			
名簿作成費		0		
			1,579,727	

項目	収入	支出	残高
服飾文化基金	1,000,000		H21年度繰り入れ
	1,000,000		H22年度繰り入れ

③服飾文化学会 平成25(2013)年度収支予算(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

項目	予算額	前年度	年度との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,347,000	1,347,000	0	
(2)入会費	16,000	20,000	△ 4,000	
(3)年間購読料	54,000	54,000	0	
学会誌				
(4)論文編掲載料	450,000	634,000	△ 184,000	
(5)作品編掲載料	250,000	300,000	△ 50,000	
その他	0	0	0	
繰越金	221,970	358,128	△ 137,075	
合計	2,338,970	2,713,128		
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
学会誌				
2)論文編発行費	700,000	900,000	△ 200,000	カラー写真掲載5万円を含む
3)作品編発行費	500,000	620,000	△ 120,000	大会発表時の記録7万円を含む
4)事務管理経費	200,000	200,000	0	
5)通信費	110,000	110,000	0	
6)会報発行費	150,000	150,000	0	
7)事務用品費	60,000	60,000	0	
8)会議費	80,000	80,000	0	
9)交通費	50,000	50,000	0	旅費・滞在外交通費(実費上乗2000円)を含む
10)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	50,000	10,000	研究例会
2)事業費B	160,000	150,000	10,000	論文発表会
(3)広報費	150,000	170,000	△ 20,000	ホームページ作成費を含む
小計	2,330,000	2,650,000		
(4)予備費	8,970	63,128		
合計	2,338,970	2,713,128		

新入会員 (3月6日～8月31日)

正会員

内 山 奈 々 (法政大学女子高等学校)
 大 川 知 子 (実践女子大学)
 櫻 木 英里子 (鎌倉女子大学)
 清 水 美 里 (文化学園大学)
 富 田 弘 美 (東京家政学院大学)
 永 井 福 江
 長谷川 紗 織 (共立女子大学)
 廣 瀬 洋 子

学生会員

石 井 理 恵 (東京家政大学大学院)
 木 村 愛 (武蔵大学大学院)
 白 土 亜 枝 (共立女子大学大学院)
 田 上 亜友美 (文化ファッション大学院大学)
 宮 崎 力 人 (大正大学大学院)
 渡 邊 裕 香 (鶴見大学大学院)

***** お知らせ *****

●会員近著

小林桂子『糸から布へ』日貿出版社 2013年1月
 角田奈歩『パリの服飾品小売とモード商1760-1830』
 悠書館 2013年2月

伊藤紀之 編著

宮武恵子 玉田真紀 畑久美子 共著

「生活デザインの体系」

2012年11月1日 発行 三共出版株式会社

(内容) 伊藤紀之著書「被服デザイン
 ザインの体系」を基盤
 に、生活からの発想と
 いう視野で、デザイン
 の概念を体系化してい
 る。



会報 No.26 : 2013(平成25)年9月30日発行

編集発行人: 服飾文化学会

事務局: 112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学 人間生活学科 徳井研究室

TEL/FAX: 03-5978-5802

E-mail: tokui.yoshiko@ocha.ac.jp

URL: http://www.fukushoku-bunka-gakkai.jp